

WEEKDAY関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

WEEKDAY関数の「役割」とは？

WEEKDAY関数の「役割」とは？

WEEKDAY関数は、日付を「曜日」そのものではなく、「曜日に対応する 1～7 の整数」に変換する関数です。「月曜日」という文字を出すのではなく、計算や判定に使うための数値を取り出すのが目的です。

=WEEKDAY(シリアル値, [戻り値の種類])

引数	内容
① シリアル値	日付のシリアル値が入力されているセル（例：A1）
② [戻り値の種類]	「何曜日を『1』にするか」を決める番号。 （※次のスライドで詳しく解説）

 **ポイント:** 単に「(月)」などを表示したいだけなら、TEXT関数(=TEXT(A1,"aaa"))の方が簡単です。WEEKDAY関数は「土日なら〇〇する」といった条件判定に使います。

【保存版】引数「戻り値の種類」の選び方

【保存版】引数「種類」の選び方

引数の「種類」には1, 2, 3... と多くの番号がありますが、実務で使うのは「1」か「2」のどちらかを使うことがほとんどです。

引数の種類	週の開始	週の終了	土曜の数値	日曜の数値	土日の並び	おすすめ度
1	日曜日	土曜日	7	1	バラバラ	△
2	月曜日	日曜日	6	7	連番 (6以上)	◎

解説:

種類「1」: Excelの標準設定ですが、土日の数値が「7」と「1」で離れているため、数式でまとめて指定しにくいのが難点です。

種類「2」: 月曜始まりにすると、土 (6)・日 (7)が数値的に大きくなり、「6以上なら休み」というシンプルな条件式が作れます。

【実践①】 土日の行に「自動で色を付ける」

【実践①】 土日の行に「自動で色を付ける」

WEEKDAY関数の真骨頂、「条件付き書式」との連携テクニックです。これを使えば、カレンダーの日付を変えるだけで、土日の色が自動で切り替わります。

手順：

1. 色を変えたい表の範囲（行全体）を選択。
2. [ホーム]>[条件付き書式]の横にある矢印から[ルールの管理]>[新しいルール]を選択。
3. 「数式を使用して、書式設定するセルを決定」を選ぶ。
4. 以下の数式を入力し、塗りつぶしの色（赤や青）を設定。

数式（種類「2」を使用）：

色を付けたい対象	数式（日付がA1にある場合）	解説
土曜日（青）	=WEEKDAY(\$A1, 2)=6	数値が6（土曜）ならON
日曜日（赤）	=WEEKDAY(\$A1, 2)=7	数値が7（日曜）ならON
土日まとめ（灰）	=WEEKDAY(\$A1, 2)>=6	6以上（6と7）ならON

 **注意：**セル番地は必ず \$A1 のように、列だけを固定（複合参照）してください。

【実践②】 IF関数との組み合わせで「営業日」判定

【実践②】 IF関数との組み合わせで「営業日」判定

「土日なら休み、平日なら営業」といった文字を自動で表示させることも可能です。

シナリオ： A列の日付に対し、B列に「営業日」か「定休日（土日）」かを表示したい。

数式： `=IF(WEEKDAY(A2,2)>=6,"定休日","営業日")`

解説： ここでも戻り値の種類「2」が活躍します。「戻り値が6以上（6か7）なら定休日、それ以外（1～5）なら営業日」というシンプルなロジックで判定できます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。